

# 令和3年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 清水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

#### 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

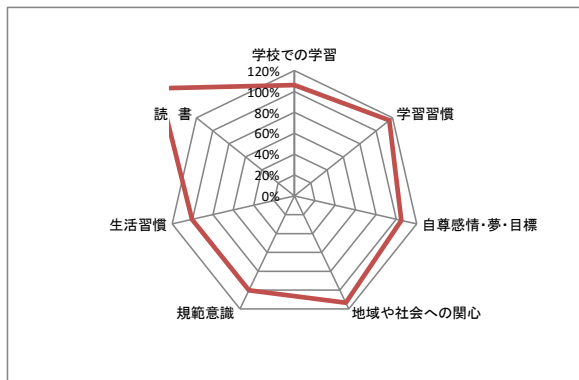
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科においては、14問中3つの問題を除いて全ての問題で全国平均と福岡県平均を上回っていた。特に文章全体の構成や展開を考えたり、自分の考えが伝わるように書き方を工夫したりするなどの「書くこと」の問題において、全国平均を大きく上回った。</li> <li>漢字を文の中で正しく使ったり、主語と述語の関係を捉えたりする問題に課題が見られた。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する、記述式の問題の正答率が高かった。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の中における主語と述語の関係を捉える選択式の問題に課題が見られた。</li> </ul>	
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科においては、16問中1つの問題を除いて全ての問題で全国平均と福岡県平均を上回っていた。特に問題に対する求め方を書いたり、その答えになるわけを書いたりする記述式の問題の正答率が高かった。</li> <li>棒グラフから数量や関係を読み取る問題に若干の課題が見られた。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題の正答率が、全国平均を大きく(25ポイント以上)上回った。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本の貸出冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ選択式の問題が、全国平均を0.7ポイント下回った。</li> </ul>	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習について、計画的に勉強していると答えた割合は全国平均を上回っていた。しかし、平日一日あたりの勉強時間に関しては、全国平均を下回った。</li> <li>生活習慣について、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」の設問に対し、「守っている」と答えた児童が全国平均を大きく下回った。</li> <li>自尊感情について、「自分にはよいところがあると思いますか。」の設問に対し、「ある」と答えた児童が全国平均を大きく上回った。しかし、「ない」と答えた児童の割合も、全国平均を上回った。</li> <li>平日の読書時間について、30分以上から2時間以上と答えた児童の割合が、全国平均を大きく上回った。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・ 授業の中で、自分の考えを書いたり、それをもとに話し合ったりする場面を多く設定し、教師主体ではなく児童主体の授業を行う。また、ICT機器を効果的に活用した授業の工夫と実践を継続して行う。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習チャレンジハンドブックを活用し、自主的に家庭学習を行う児童の育成に努める。
- 携帯電話・スマートフォンやタブレットの使い方については、ネット非行防止教室等を活用し、継続して指導していくとともに、ポスター掲示等で啓発していく。